
* * 近い空 * *

すもも

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

* * 近い空 * *

【Zコード】

N7767E

【作者名】 すもも

【あらすじ】

私は死んだはずの彼氏とキスした・・・それは一瞬の出来事で、私はすぐにこちらに戻された・・・。

「 もちも ああ ああああああツーー！」

・・・ズドンーー！

・・・目を開くと、そこには、もういるはずのない人がいた。

「智明・・・？」

綾瀬亜湖。・・・17歳の少女には、何が起きのたかまったく理解できなかつた。

いつもと変わらない町の風景、しかし、目の前には、もういないはずの人。

「嘘でしょ・・・智明！！」

何が起きたのか、何故ここに智明がいるのかなんて、もはやビックリもよかつた。

ただ、また会えたことが嬉しくて。

亜湖の眼からは大粒の涙が零れた。

必死に抱きしめる。

また、会えなくなる気がして。

「智明・・・智明い・・・！ホント、会いたくて・・・私、もう・・・

。」

・・・一年前、智明は死んだ。

病気だった。日に日に衰弱する智明を、私はただそばで励ましてあげることしかできなかつた。

智明が死んでから、私はずっと屍のよひに生きていた。

完全に色を失っていた。

一体どれくらい泣いたことか。

もつねえないなんじ」とはわかつてゐるはずなのじ。

・・・だから、これはきっと夢なんだ。

私の夢だ。

「・・・むへ、夢でもいい。」

西湖は力いっぱい智明を抱きしめた。

「お願いだから、……どうか、覚めないで。」

「あアヒ、」Jの夢の中へこむせり・・・・・

『垂瀬、まだ駄目だ。お前はまだ生きるんだよ。』

「・・・・ハビリツの意味?」

やうこつと細明は少し悲しい顔をして、空を見上げた。

『オレだってなア、寂しいんだよ。ただ、上からお前のJとを見守
ることしかできねH。』

「智明・・・・?」

『オレは待つ。・・・ずつと、その時が来るまで。』

「・・・何?何を言つてゐのー?..

『お前はまだここに来んじやねーよ。』

「待つて！私、ずっと智明と一緒にいる……智明のいない世界なんて、もう…」

・・・畠湖の面に、柔らかく、温かいものがあたつた。

智明は顔を真っ赤にしながら言った。

『・・・超遠距離恋愛って、ちょっとビデオキッズしね？』

・・・だんだん視界が暗くなつた。そして、私の意識はそこで途切れた。

でも、途絶えつつある意識の中で、かすかに聞こえた。

『寂しへる』

「西湖ー・・・西湖ー。」

「お姉ちゃんっ」

「畠瀬……畠瀬もじゅうやう……。」

畠瀬は静かに口を開いた。

「あ・・・畠瀬……。」

「畠瀬……。」

「お姉ちゃんの馬鹿……自殺なんてしないでよお……。みんな……。」

「?」

「お姉ちゃんの馬鹿……自殺なんてしないでよお……。」

•
•
•
自殺
•
•
•

そつか、私、屋上から飛び降りて……。それから……。

「ああツ！智明！！！智明は・・・。」

•
•
•

やつぱつあれは夢だったの？

でも・・・

雨瀬は皿穴の手を躊躇に引いた。

「……難じやなー。」

雨瀬はやわらかく、ベッドから飛び降り、枕を見上げた。

「……なんだ、近いじゃない、私たちの距離。」

手を伸ばせば唾をやつな気がした。

・・・
翌朝。

「私も、愛してる……。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7767e/>

* * 近い空 * *

2011年1月16日05時15分発行